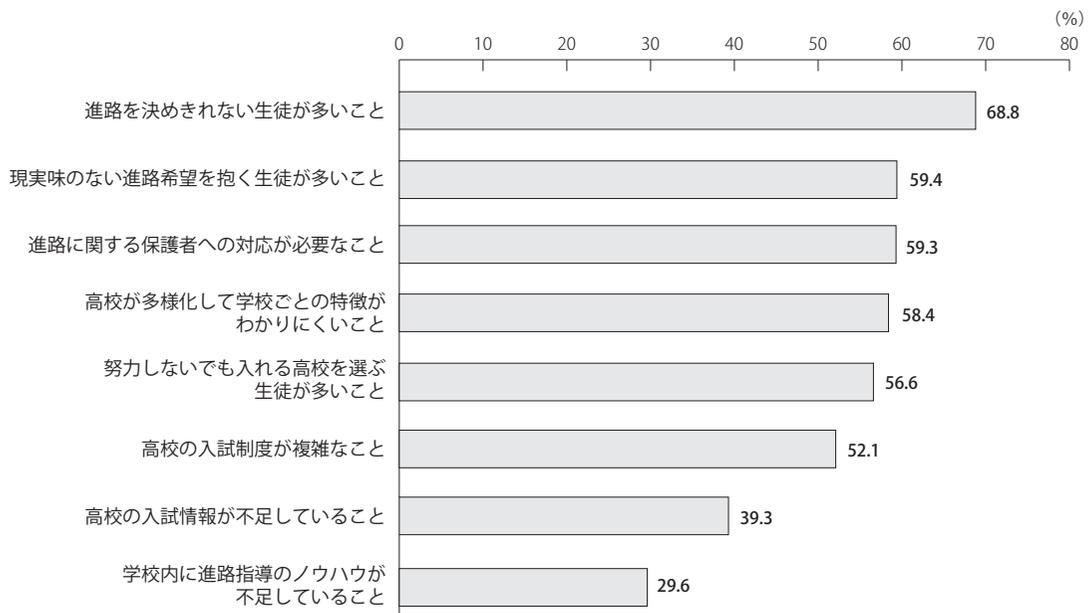


教員が進路指導を行う上で困難に感じていることでもっとも回答の比率が高かったものは「進路を決めきれない生徒が多いこと」で7割。次いで、「現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと」「進路に関する保護者への対応が必要なこと」「高校が多様化して学校ごとの特徴がわかりにくいこと」が6割。ただし、その悩みには地方別による差がみられる。

図5-1-1 進路指導を行う上で感じる困難（10年調査） **中学校教員**



注1) 「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%。

注2) サンプル数は2,827人。

進路指導を行う上での困難についてたずねたものが図5-1-1である。教員の中でもっとも回答比率が高かった項目は「進路を決めきれない生徒が多いこと」で教員の7割が回答している。次いで高かった項目は「現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと」「進路に関する保護者への対応が必要なこと」「高校が多様化して学校ごとの特徴がわかりにくいこと」「努力しなくても入れる高校を選ぶ生徒が多いこと」で、回答した教員の比率はそれぞれ5割5

分から6割である。

ではどのような学校の教員が以上にあげた進路指導を行う上での困難を感じているのだろうか。それらは学校のある地域（進路の選択肢が多い地域なのか、少ない地域なのか）や、生徒の特徴によって、教員が感じている困難の質が異なる可能性がある。そこで以下では、地方別、生徒の平均学力別に進路指導を行う上での困難を調べた。

II 学習指導・進路指導の現状と意識

表5-1-1 進路指導を行う上での困難（地方別／10年調査）**（中学校教員）**

【地方別の差が大きかった上位3項目】

(%)

	北海道	東北	北関東	南関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
高校の入試制度が複雑なこと	35.8	48.2	53.1	67.5	40.7	61.9	51.1	47.6	44.4
高校が多様化して学校ごとの特徴がわかりにくいこと	43.8	55.1	57.2	70.0	51.7	67.7	56.1	49.5	52.4
進路に関する保護者への対応が必要なこと	47.5	60.4	58.6	63.5	63.7	52.8	56.1	55.1	59.1

【地方別の差が小さかった上位3項目】

(%)

	北海道	東北	北関東	南関東	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
学校内に進路指導のノウハウが不足していること	26.3	34.3	27.5	34.2	24.6	24.8	27.2	32.7	34.4
現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと	54.0	58.8	58.1	63.8	59.8	53.6	62.2	63.6	58.2
進路を決めきれない生徒が多いこと	67.1	72.6	60.8	70.2	71.4	65.6	68.9	69.2	67.9

注1) 「とても困難を感じる」+「やや困難を感じる」の%。

注2) 地方の区分はp.9の図A-1参照。

注3) サンプル数は、北海道137人、東北303人、北関東222人、南関東594人、中部569人、近畿375人、中国180人、四国107人、九州・沖縄340人。

全国の地方別に進路指導を行う上での困難をみたものが、表5-1-1である。まず地方別の差が大きかった項目の上位3つをみたところ、高校や保護者に関する項目が集まった。「高校の入試制度が複雑なこと」は南関東67.5%であるのに対し、北海道では35.8%にとどまっており、両者の間には31.7ポイントの差がみられる。また「高校が多様化して学校ごとの特徴がわかりにくいこと」（南関東70.0%>北海道43.8%、26.2ポイント差）においても同様に南関東と北海道でポイントに大きな差がみられる。学校数や学校の種類が多い地方ほど選択肢が多いため、教員は進路指導がより難しくなるのかもしれない。また「進路に関する保護者への対応が必要なこと」（中部63.7%>北海道47.5%、16.3ポイント差）は、中部や南関東、

東北でポイントが高く、北海道や近畿でポイントが低い。

一方、地方別の差の小さかった項目をみたところ「学校内に進路指導のノウハウが不足していること」（東北34.3%>中部24.6%、9.9ポイント差）、「現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと」（南関東63.8%>近畿53.6%、10.2ポイント差）、「進路を決めきれない生徒が多いこと」（中部71.4%>北関東60.8%、10.4ポイント差）が上位3つであり、比較的どの地方の教員も進路指導の困難さを感じている。このように進路指導の困難さには、地方の特徴がみられる困難さと、どの地方の教員も、比較的共通して感じている困難さがあるようである。

つづいて学校の生徒の平均学力別に、進路指導を行う上での困難をみたところ（表5-1-1

表5-1-2 進路指導を行う上での困難（生徒の平均学力別／10年調査） 中学校教員

(%)

	上位校		中位校		下位校
高校が多様化して学校ごとの特徴がわかりにくいこと	56.2		59.0		58.2
高校の入試制度が複雑なこと	45.6	<	53.5		55.4
高校の入試情報が不足していること	35.2	<	41.7		39.2
進路を決めきれない生徒が多いこと	65.8		69.5		70.9
現実味のない進路希望を抱く生徒が多いこと	59.2		59.9		59.5
努力しなくても入れる高校を選ぶ生徒が多いこと	50.5	<	55.9	<	63.5
進路に関する保護者への対応が必要なこと	56.9		60.8		59.4
学校内に進路指導のノウハウが不足していること	27.8		29.1		31.3

注1) 「とても困難を感じる」＋「やや困難を感じる」の%。

注2) 「生徒の平均学力別」は、中学校の校長に「貴校の平均的な生徒の学力は、全国の公立中学校の中でだいたいどれくらいですか」とたずねた質問に対して、「上のほう」「やや上のほう」と回答した場合は「上位校」、「真ん中くらい」を「中位校」、「やや下のほう」「下のほう」を「下位校」としている。

注3) <>は5ポイント以上差があるもの。

注4) サンプル数は、「上位校」617人、「中位校」1,258人、「下位校」797人。

2)、生徒の平均学力によって進路指導を行う上での困難に差がみられた項目と、差がみられなかった項目が確認された。

生徒の平均学力による差が確認されたのは「高校の入試制度が複雑なこと」「高校の入試情報が不足していること」「努力しなくても入れる高校を選ぶ生徒が多いこと」の3項目である。

「高校の入試制度が複雑なこと」「高校の入試情報が不足していること」の2項目については生徒の平均学力が「中位」「下位」の学校と、「上

位」の学校とで差がみられた。高校の進学率は97%を超えるため、ほぼ全員の生徒がどこかの高校へ進学していくわけだが、生徒の平均学力が「中位」「下位」の学校の教員は、生徒の平均学力が「上位」の学校の教員に比べ、より幅広い内容に困難さを感じているようである。「高校進学」といっても、その種類やコースは実に多様であり、そうした高校の多様性が、教員の進路指導の困難さにつながっているのかもしれない。